



東北大学

平成24年8月3日

報道機関 各位

東北大学大学院理学研究科

国際シンポジウム「科学の不定性と社会 ～ いま、法廷では..? ～」  
ブリーフィングのご案内

原発、地球温暖化への対処など、科学だけでは正解が出せない先端技術や環境予測などで、市民、行政、そして司法は、判断材料としての専門家をどう活用すべきでしょうか。本ブリーフィングでは、シンポジウムの問題意識を、コンカレント・エヴィデンス方式の新しい科学裁判を普及させた豪州NSW最高裁判所マクレラン判事、科学の不定性と社会的意思決定の理論家であるサセックス大学スターリング教授（科学政策論）を招聘する趣旨と合わせてご説明します。

本シンポジウムは、独立行政法人科学技術振興機構 社会技術研究開発センター「科学技術と人間」研究開発領域、研究開発プロジェクト「不確実な科学的状況での法的意思決定」の一環として行っているものです。

日時： 8月8日（水） 午後1時～午後3時

場所： JST東京別館2階セミナー室：東京都千代田区五番町7 K's 五番町

出席者：常盤大学 吉良貴之、総合研究大学院大学・学融合推進センター 平田光司

国際基督教大学 中島貴子、東北大学大学院理学研究科 本堂 毅

配付資料： コンカレント・エヴィデンス日本語版ビデオ

スターリング氏の研究紹介（日本語版）など

詳細Web：<http://www.sci.tohoku.ac.jp/hondou/0826/>

用語解説：

コンカレント・エヴィデンス：オーストラリア発祥の科学裁判の新しい手法

科学の不定性：社会との接点で科学が持つ、解を一つに定め得ない性質

お問い合わせ先：

東北大学大学院理学研究科 国際シンポジウム事務局  
担当（大石、本堂）

tel. 022-795-5823、 fax. 022-795-5831

sy826@mail.sci.tohoku.ac.jp